

中学校社会科（地理的分野）単元計画

日時； 平成 30 年 10 月 12 日（金） 1 時限目

対象； 東京学芸大学附属世田谷中学校

2 年 A 組 40 名

指導教員； 篠塚昭司 教諭

授業者； 横山和哉



1. 単元名 地理的分野「第 2 部 日本の様々な地域」

第 3 章 日本の諸地域 7 節 北海道地方

（教科書『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』帝国書院』p254・265）

学習指導要領 「地理的分野」内容（2）「日本の様々な地域」ウ「日本の諸地域」

(イ)「歴史的背景を中核とした考察」

2. 単元の目標

- ・北海道の主要産業が、日本人の生活にどのような影響を与えているのか、積極的に追及し理解を深める。 【社会的事象に対する関心・意欲・態度】
- ・北海道地方について、歴史的背景を中核とし、自然環境、産業と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。 【社会的な思考・判断・表現】
- ・統計や読み物資料から、北海道地方の地域的特色について有用な情報を適切に読み取ることができる。 【資料活用の技能】
- ・北海道地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、知識を習得できる。 【社会的事象についての知識・理解】

3. 単元の評価規準

ア. 社会的事象への関心・意欲・態度	イ. 社会的な思考・判断・表現	ウ. 資料活用の技能	エ. 社会的事象についての知識・理解
・北海道の主要産業が、日本人の生活にどのような影響を与えているのか、積極的に追及しようとしている。	・北海道地方について、歴史的背景を中核とし、自然環境、産業と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・統計や読み物資料から、北海道地方の地域的特色について有用な情報を適切に選択している。	・北海道地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方を基に地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

#### 4 単元の指導計画と評価計画（4時間扱い）

時	学習内容	評価規準（評価方法）
1	北海道地方の自然環境 ▶ 北海道の「自然環境」には、どのような特色が見られるのだろうか。	ウ、エ （ワークシート）
2	アイヌ民族の始まりと北海道成立 ▶ アイヌ民族が生活していた「蝦夷地」と明治時代以降の「日本としての北海道」の間には、どのようなつながりがあるのだろうか。	イ、ウ （観察）（ワークシート）
3	地震被害から見えてくる北海道の産業の特徴 ▶ 北海道の農業、水産業は地震によってどのような被害を受けたのだろうか。	ア、ウ （観察）
4 （本時）	地震からの復興を後押しする観光業 ▶ 「ふっこう割」を利用して観光することで、どのように復興への後押しとなるのだろうか。	ア、ウ （観察）

#### 5. 本時の目標（本時；4時間目）

- ・北海道の観光業の復興が他の主産業の復興へにつながる流れについて、本やパンフレット等の資料を読み取る活動を通して、単元全体で学んだことを生かして理解する。

#### 6. 学級観

2年A組の生徒は、2学年の他学級と比べて活発な学級である。特定の生徒だけが盛り上がっているのではなく、学級全体で和気あいあいとした雰囲気であることが特徴である。行事に向けた学活の場面では、リーダーの生徒が練習を仕切りながらも、より良くしていくために多くの生徒が意見する場面がみられ、団結力に関しては申し分ない。

また授業時に関しても、授業全体を通して賑やかな雰囲気である。明るい空気に包まれていることによって、自分の意見を言う際に萎縮してしまうということはほとんどなく、多くの生徒から様々な意見が飛び交っている。

しかし、その賑やかさによって、グループワークの際に話が脱線して授業内容から離れてしまったり、個人で考える作業の際にも話し声が聞こえてしまったりすることがある。授業全体を通して集中力を持続させること、そして今やるべきことは何か、一人一人が考えられるようになることで、更なる成長に繋がっていくと考えられる。

## 7. 教材観

本単元は、学習指導要領「地理的分野」内容（2）「日本の様々な地域」ウ「日本の諸地域」の中の北海道地方について、（イ）「歴史的背景を中核とした考察」を行う。日本最大の面積を誇る北海道は、豊かな自然環境を生かし様々な産業が発展している。それらが他の地域と比べた時、どのような特徴を有しているといえるのか、またどのような経緯で発展してきたのかについて、アイヌ民族などの歴史的背景にも触れながら、理解を深めていくことを目的とする。

本時の授業では、前時に取り上げた北海道胆振東部地震で被害を受けた産業についての学習を受け、観光庁と北海道が連携して行っている復興施策である「元気です北海道 Welcome! HOKKAIDO, Japan.」について取り上げる。この施策は、北海道について改めて「知ってもらおう」、実際に北海道に「来てもらおう」、北海道内の様々な場所に「行ってもらおう」、北海道を「楽しんでもらおう」という4つのテーマからなっている。これを本単元に当てはめると、北海道について知る活動を前時まで行ってきた。本時ではその次の段階である、北海道に「来てもらおう」ために行われている代表的な取り組みである「北海道ふっこう割」に着目する。北海道を代表する産業の一つである観光業が筆頭となり、北海道の他の産業と共に復興していく過程を考えさせることで、単元を通して学んできた北海道の主産業同士の密接な関係について気付かせたい。そして生徒たちに、自分たちが観光客として復興を後押しするために何ができるかについて、「ふっこう割」を使って北海道に旅行するという設定のもと、日本人としての「絆」を意識した案が出せると良いと願っている。

## 8. 本時の展開と評価

授業の流れ	学習内容・活動	予想される生徒の発言 教師の発言 ◇資料	指導上の留意点 ☆評価規準
導入 (つかむ) 10分	<p>1. 北海道の「ふっこう割」について知る</p> <p>○前時に、北海道地震により産業が被害を受けた内容を扱ったことを確認する。</p> <p>○北海道の「ふっこう割」について紹介する。</p> <p>○北海道の「ふっこう割」は誰にとってメリットがある施策なのかを考える。</p>	<p>◇スライド資料</p> <p>C「北海道に行く観光客にとってはお得。」</p> <p>T「地元の人にとってはどうかな。迷惑にならないかな？」</p> <p>C「観光地が活性化す</p>	

		るから、そのことが復興の助けになると思う。」	
観光客が増加することで、嬉しい職業とは？			
展開 (予想) 33分	<p>2. 北海道の観光業が賑わうことが、どのような流れで北海道全体の復興につながるかを考える。</p> <p>○生徒から挙げてもらった意見を広げ、観光業の復興が他の産業の復興につながることを示す。</p> <p>○これまでの学習を生かして、グループごとに「北海道の復興」をテーマに、行ってみたい観光地について考える。</p>	<p>C「お土産屋さんが儲かる」</p> <p>C「お土産屋さんに商品を卸している業者も儲かる」</p> <p>T「じゃあ、その業者は何を原料に商品を作っているのかな？」</p> <p>◇北海道に関する本</p> <p>◇北海道旅行のパンフレット</p>	<p>☆北海道の観光業の復興が他の主産業の復興へとつながる流れについて、ノートにまとめることができる。</p> <p>・机間指導は、意見が1つにまとまっていないグループがないかに注意しながら行う。</p> <p>☆「北海道の復興」をテーマとした旅行案について、グループごとに議論しながらまとめることができる。</p>
まとめ 5分	○なぜ観「行」ではなく観「光」なのか。	<p>T「国の威光を観る、という意味がもともとあった」</p> <p>T「旅先独自の『光』に関心をもって、旅での経験を別の何かを生かして初めて『観光した』と言える。」</p>	

## 9. 板書計画

<p>観光客が増加すること で、嬉しい職業とは？</p>	<p>「北海道ふっこう割」を使って 北海道旅行に行こう！</p>
<p>・お土産屋→観光客が増える →お土産がたくさん売れる (Ex.乳製品) →生乳の生産者がもうかる ⇒酪農家がもうかる</p>	<p>テーマ：「<u>北海道の復興</u>」を後押ししてください！</p> <p>①どこに行くか？ ②その理由は？</p>